

5S で業務改善 ～リハビリテーション科の取り組み～

東京天使病院 リハビリテーション科 言語聴覚士 岩井啓行^{いわいひろゆき}

【はじめに】

脳卒中治療ガイドライン 2009 はグレードAの強く勧める勧告として、ADL に対するリハビリテーションは早期から十分な訓練量を確保しながら積極的に取り組むべきであるとしている。しかし、リハビリテーション科の業務は診療、リハビリテーション実施計画書等の書類作成、家屋評価、カンファレンス、病棟との連携など煩雑であり、患者さん一人一人と向き合う時間を十分に確保するには様々な障害があるのが実情である。また業務の特性上、診療とカルテの同時作成が困難で、昼休みや夕方などの限られた時間にカルテやパソコンの「順番待ち」がしばしば起こっていた。今回我々は平成 23 年 12 月より 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を業務改善の手段として導入したので、その取り組みを報告する。

【取り組み】

平成 23 年 12 月より手首式血圧計、パルスオキシメータ等の「紛失しやすいリハビリテーション物品の管理」した。同時に床にテープを貼り、「所在不明になりがちな低周波や超音波等のリハビリテーション機器の管理」をした。平成 24 年 7 月には「リハビリテーションカルテの管理方法の統一化」を実施。同年 12 月「事務所のレイアウト変更」。平成 25 年 1 月から、カルテやリハビリテーション料算定のための「管理アプリケーションソフトの導入」と、それに伴い「パソコンの台数を追加」した。

【結果】

リハビリテーション科職員 23 名にアンケートを実施。「5S による業務改善があったか？」という問いには 100%が「はい」と回答。「具体的にどのような業務改善を感じているか（複数回答可）」という質問に対しては、96%が「リハビリテーション室が綺麗になった」、「事務所が綺麗になった」と回答。次いで「探し物の時間が減った(87%)」、「カルテ作業にかかる時間が減った(83%)」と続いた。また、9 名（39%）から「帰宅時間が早くなった」という回答があった。

【考察】

5S によって業務改善に効果があった。具体的には職場環境が綺麗になり働きやすくなった。また、ソフト、ハードの両面から業務を効率化することで「時間」を捻出することに成功した。この「時間」を患者さんに向けることによりリハビリテーションの質の上に繋がっていくだろう。従って、業務改善は間接的に診療を担保する重要な仕事であると思われる。